

その2

昨日は「地域に繋がる精神科医療」についてお話いたしました。本日はその続きをお話しさせていただきます。退院された患者さんが地域で安心、安全に生活をするためのキーワードとして服薬のアドヒアランスの向上についてお話させていただきました。ここでもう一度、アドヒアランスという言葉の説明いたします。アドヒアランスはお互いが理解を深めあって行動することを意味しています。つまり服薬のアドヒアランスと言う事は、患者さんがお薬の効き目や副作用を充分理解していただいて使用する場合は、アドヒアランスは高いということになります。服薬アドヒアランスの高い患者さんは再発する可能性は低くなることはよく知られた事実です。

当院では精神科医だけではなく看護師、薬剤師を含めた専門家が1つのチームを組んで患者さんの生活の質の向上と再発、再入院を防止する課題に取り組んでいます。

私達は約10年ほど前から往診と訪問看護に力を入れるようになりました。その結果当初は1か月にして延べ往診と訪問看護はそれぞれ約30件ずつでした。その後順調に活動を続けた結果昨年12月には往診は月80件、約2.5倍に。訪問看護は約110件と、約4倍近くに増加しています。つまり、入院しなくても服薬管理などをうけて在宅生活を送っている方が増えたわけです。

それらの活動を通じて患者さんの服薬アドヒアランスも改善し、再発、再入院も随分減りました。これまでは、どうしても患者さんは、自己判断でお薬を飲まなくなったり、あるいはつい、飲み忘れることが多くなりがちでしたが、それを往診や訪問看護で補っています。具体的にはご自宅に伺い、服薬確認をし、場合によってはお注射も打ちます。

患者さんに対してはLAIと言われる長くゆっくり効く注射を勧めています。患者さんの理解と同意が得られれば、4週間に1回の注射治療に切り替えます。4週間に1回の注射で済むわけです。なお昨年から新たに1回の注射で3か月間お薬の効き目が続くLAI製剤も使用可能となっています。これですと、年4回注射することによってお薬を飲まなくてもよくなります。

おっしゃる通りです。もちろん注射はどうしても嫌だという患者さんもたくさんみえます。その場合はですね。1日1回だけの服薬で済む長時間持続性のお薬を服用していただいています。また最新の治療薬としては、湿布薬のようにですね。1日1回皮膚に張り付けるだけのテープをすすめる場合もあります。とにかく私たちは患者さんの服薬について、本音を充分に伺い尊重し、理解したうえで、それぞれの患者さんに適した、無理のないお薬の利用方法を一緒に考えていくことを目指しています。患者さんはその結果、ご自分の好む治療法を選べるようになります。

もちろん精神科の薬物療法だけでは地域社会で生活していくことに対し不十分で

あるケースもあります。患者さんが地域で安心して生活するためには、さまざまな福祉制度の利用方法を説明し、患者さんやご家族の理解を受けたうえでその手続きを受けられるように協力させて頂いております。

次に、経済的な負担を心配される方も多いと思いますが、それにつきましては精神保健福祉法による自立支援医療制度とって、医療費が1割負担で済むという制度があります。さらに福祉手帳をお持ちになると、手帳の判定が1級、2級の方は医療費の負担がありません。それは全国の中でも岐阜県は特に充実しています。また、障がいによって働くことが困難になった方には障害年金の手続きなど、安心して生活できるようサポートさせて頂いております。どうぞご遠慮なくご相談してください。

以上地域に繋がる精神科医療というテーマで2回にわたりお話をさせて頂きました。患者さん自身が治療当事者としてご自分の病気についてよく理解したうえでさらに再発防止の観点からお薬を続けて使用するかの意義について強調させて頂きました。また最近では入院しなくてもLAI注射や精神科の張り薬などが開発されてきて、その結果多くの患者さんが地域で安定した生活を送る事が出来る事になったこととお話しさせて頂きました。